13 号　2012 年 12 月 24 日発行

SIGNIS JAPAN　ニュースレター

タリタ・クム！　起きなさい！

発　行：SIGNIS JAPAN（カトリックメディア協議会）
代　表：千葉茂樹
発行所：〒 107-0052　東京都港区赤坂 8 － 12 － 42
聖パウロ女子修道会内
TEL 03 － 3479 － 3941　E-mail：info@signis-japan.org
http://signis-japan.org/

天使は言った。
「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。
今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。
この方こそ主メシアである。

あなたがたは、布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。
これがあなたがたへのしるしである。」

（ルカ 2.10-12 『聖書　新共同訳』）

主のご降誕おめでとうございます！
12 月に入り、衆議院選挙を経て、３年半の民主党政権が終わりを告げ、また政権交代という慌ただしい変化の年末となりました。これからの日本がどこに向かうのか、私たち信徒に何ができるのか、キリストのもたらす新しい光の中で考えたいと思います。皆様、どうぞよいお年をお迎え下さい。

クリスマス会

シグニス顧問司祭　晴佐久昌英

神父になって 25 年、これまでいくつのクリスマス会を企画してきたことでしょうか。教会学校、青年会、各グループをはじめ、市民クリスマスから高齢者施設での出張パーティーまで、クリスマスのたびにさまざまな集いを工夫してきました。「やるならちゃんと」を心がけてきたつもりですが、実はぼくには、それらの原点となるクリスマス会があるのです。

高校１年の冬、そろそろクリスマスが近づいてきた頃、突然父が言い出しました。「わが家で、近所の子供たちを集めてクリスマス会をやろう」。小さな団地のごく普通の家ではありましたが、そうでなくとも常に人が集まっていたわが家にとっては何の違和感もない提案でしたし、いつも福音宣教を大切にしていた父の思いはよく分かりました。

家族みんなで家を飾り、ツリーを準備し、歌集を用意し、お菓子や文具の詰め合わせのプレゼントを袋詰めしてリボンをかけ、招待状を作って子どものいる家を一軒一軒まわってお招きしました。おかげで、当日は大勢の子供がやってきて、狭いわが家は大賑わい。姉がオルガンを弾いてみんなを歌わせ、弟がゲームで遊ばせ、ぼくは手作りの影絵劇を上演したものです。母の焼いたケーキをみんなで食べ、最後にカードとプレゼントを渡します。

子どもたちのうれしそうな顔が忘れられません。この「晴佐久さんちのクリスマス会」は、父が亡くなるまでの数年間、続きました。参加者の中には、教会に一緒に来るようになり、後に洗礼を受けた子供もいます。

父が亡くなった翌年、ぼくは神学校に入り、こうして今なおクリスマス会を工夫しているわけですが、最近ふと思います。あのクリスマス会は、父にとっては、単に近所の子どもたちを教会に導きたいというだけでなく、こういうことをちゃんと工夫し、手間暇かけてやっていきなさいという、わが子への教育だったのではないか、と。そうならば、その教育は見事に成果を収めたというしかありません。

（写真提供：女子パウロ会）

ニュース

第 16 回　教会・修道会ホームページ担当者交流会

第 16 回「教会とインターネット」セミナーが 9 月 22 日（土）カトリック田園調布教会で行われました。今回は、教会ホームページ担当者交流会で、各教会や修道会のホームページ担当者など約 50 名が参加しました。参加者はいつもより若干少なめでしたが、その分密度の濃い交流がなされたと思います。

セミナーの開催に先立ち、SIGNIS JAPAN は「第 3 回教会ホームページ定点観測調査」を行い、メンバーが手分けして、すべての小教区の教会名を検索してホームページの有無などを調べました。その結果とおススメ小教区教会ホームページを紹介しました。

今回の定点観測により、巡回教会なども含めた小教区教会のうち、ホームページをもっている教会は、2007 年 27％、2009 年 29％、2012 年 36％と少しずつ増加していることがわかった。

さらに参加者がそれぞれの関わっているホームページをプロジェクターで映しながら、その内容や製作にあたっての問題などを紹介しました。特に今回は、横浜教区第 2 地区広報担当者が参加されたり、SIGNIS がホームページ製作をお手伝いしている教会の担当者が参加されていたことが目立ちました。コンピューター関係の専門家というより、教会の広報担当者がホームページを作るようになってきていることのあらわれだろうと思います。

（土屋至）

2012 年 SIGNIS ASIA 会議報告

去る 10 月 1 日から 5 日までマレーシアのクアラルンプール郊外にてシグニスアジアの総会が行われ、昨年のネパールに続いて参加させていただく機会を与えられた。今年のテーマは「平和の文化のためのメディア」、またサブテーマは「弱い者に寄り添う - 人身売買・移民移住労働者・難民」、サブテーマの講演は特に重い内容で、実際に戦乱の地から逃れて来た少年の証言、性的に搾取されている女性たちの実態など、解決にはアジア全体で取り組まなければならないことを実感した。

印象的だった出来事は、会議場であるホテルの立地する町のカテドラル教会でミサがあったのだが、各国のメンバーが自国の国旗を持って入堂することになっていた。ところが、事務局が用意していたのは、日の丸の下に「KOREA」と書いてある旗だった。韓国のメンバーの顔が青ざめるのがわかったので、私はつたない英語ながら、日本と韓国の不幸な歴史について事務局のメンバーに手短に話し、これは大変まずいミステイクであることを伝えたのだった。結局われわれは、今回欠席の国々の旗を持って入堂した。ミサの後、韓国のメンバーと、アジアの歴史は自分のこととしてしっかり学ばなければ、と話し合った。特に若い世代の歴史離れは東アジアの国々でも顕著だそうで、正しい歴史を学ぶためにシグニスの働きの可能性もあるのではないかと思った。

東アジアのメンバーと

（林里江子）

【賛助会員募集と寄付のキャンペーンをはじめました】

すでに賛助会員となっておられる方々、ご支援いただきありがとうございます。これからも引き続きご支援をお願い申し上げます。シグニスジャパンの賛助会員への特典として従来の機関紙「タリタ･クム！」の送付に加えて、毎年 1 回初夏の頃（？）に、感謝のミサと茶話会を持たせていただきます。遠路他でご出席できない方々にはお説教の内容と写真をメールさせていただきます。賛助会員でない方々にはこの機会にぜひ賛助会員（年会費 3,000 円）になっていただく、またはご寄付をお願いできれば幸甚です。

会員紹介

シグニスと私

鈴木　浩

「神様、あなたが今日私たちを、ここに集めてくださいました…」シグニスの会合は、たいていの場合、晴佐久神父のこの祈りで始まる。私この祈りの瞬間が好きだ。

会合の度に「仕事で忙しいけど出席するか、それともやはり欠席しようか」と迷う。

だが出席して、やはりそれぞれ忙しいメンバーたちと共に、こころをひとつに祈る時「やはり来てよかった」という気持で満たされる。会議ではメンバーたちの意見にただただ感心するばかりで自ら発言することはあまりない。それでも「来てよかった」と思うのは、ここに来なければ聞くことのなかったメンバーたちの「ことば」に出会い、明るい笑顔に励まされるからだ。

会議に出席したメンバーたちのさまざまな意見、視点に毎回何かを学ぶ。知らなかった映画の存在を知る。メディアによる福音宣教に熱心なメンバーたちの思いに触れる。そして自分のこころの成長につながる時間を与えられたことを感謝しつつ帰途につく。

会議の後の食事会に出席すれば、帰宅は「午前様」だ。それでも「行ってよかった」は変わらない。不思議なくらい元気が与えられている。カトリック映画賞の選考の時期になると、できるだけ多くの映画を見なければならない。時間のやりくりには苦心するが、映画が大好きな私には至福の時でもある。同じ映画を観てメンバーたちと語り合う。それは他では得ることができない喜びである。これからも、深夜の帰り道を急ぎながら「行ってよかった」を繰り返すことだろう。

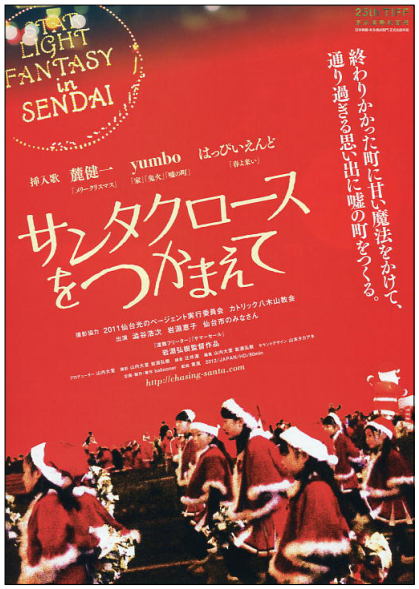
お勧め映画紹介

「サンタクロースをつかまえて」

清水京子

仙台市出身の岩淵弘樹監督は、震災後はじめてのクリスマスを迎える時期に、仙台に帰りました。仙台では、毎年、けやきの並木道をイルミネーションで飾る「光のページェント」が行われてきましたが、55万個のLED電球は津波で流されてしまい、開催が危ぶまれていました。しかし、開催できないという状況を知った全国の人々からの支援がとどき、無事「光のページェント」を開催することができました。

まぶしい光を浴びて光のページェントを喜ぶ仙台の人々、監督の祖父の妹にあたるおばさん、おばさんが通うカトリック八木山教会のクリスマスミサとパーティー、監督のお母さん、父親として幼いわが子のためにサンタクロースからのプレゼントを用意する友人、ライブをやっている友人などなど、クリスマスを迎える人々の姿をカメラで追いました。彼らは、震災をどうとらえ、その後をどう過ごし、何を考え、これからどう生きようとしているのか、監督はカメラを向けながら、親しい人々に問いかけていきます。



今まであたりまえのように行ってきたクリスマスですが、「辛い日々が続いているが、今年もクリスマスを祝おう」という思いは、震災前のクリスマスとは違うものになっていました。

たしかに彼らは、救い主であるイエスの誕生を祝うという本来の意味は意識せずに祝っています。しかし、子どものために、震災後の苦しい生活の中にあっても、がんばってプレゼントを用意する親として子を思う姿には、他者を思う愛、人々と交わることを喜ぶという、イエスが示す愛が示されています。

「子どものころ、サンタクロースを本当に信じていて、寝る前にドキドキして、朝起きたときにプレゼントを見つけてドキドキした」という監督の純粋な気持ちを感じる作品です。

（公式サイト　http://chasing-santa.com/）

岩淵弘樹監督／2012年

あの日を忘れない－東日本大震災

神の恵みを思い起こす体験

熊坂　武志

１年９ヶ月が経った今でも、あの日の恐怖は鮮明に脳裏に焼きついています。今でも、余震が来るとあの時の震災の恐怖が甦るようです。

私は、宮城県北部の大崎市に出張で出かけていました。仕事が終わり帰り際に、地震が起きたのです。次々と物が落ち、直したばかりの修理品が床に叩き落ち、本棚が倒れてきて逃げるにも精一杯でした。

やっとの思いで外に逃げたのですが、立っていられないほどの揺れで、電柱やブロック塀が倒れて行くのを、ただ呆然と見ていました。すぐに社用車で仙台に帰るつもりでした。しかし、停電で信号は消え、舗装道路は割れ、電柱が倒れ大渋滞の中、緊急車両のみしか通行が許されない状況でした。

雪が降ってきて寒く、ほとんど進まない渋滞の中、３時間でガソリンがそこを突いてしまったのです。路肩に車を寄せて、その日は警官に誘導されるまま、近くの学校に避難しました。

それからの一晩は、自分の想像を超えるようでした。食べ物や水も無く、情報もなく、凍えるような暖房もない寒さの中でただ、余震に怯えて一睡もすることが出来ず、祈ることさえも忘れていました。喉の渇きはトイレの手洗い水を飲みました。食べ物は近くのお弁当屋さんが小さな、おにぎりを配ってくれました。それも一人１個で子供、お年寄りが優先です。それでも、その小さなおにぎりがどれほどありがたかったことか。日頃、当たり前に思っていた、電気がつくこと水が出ることガスがつくこと食事が出来ること、これらすべて元を正せば神様からの恵みであることに気づかされました。

見知らぬ人どおし、声を掛け合い助け合い、人の温かさに勇気づけられました。

二度と体験したくありませんが、これ程、貴重な得がたい体験もなかったと思います。

日頃、忘れていた神様の恵みを思い起こす体験でした。

(写真提供はカリタスジャパン仙台教区サポートセンターよりご協力いただきました)

SIGNIS JAPAN とは

SIGNIS とは、世界 140 カ国に広がるカトリックのメディアに携わる人々の世界組織です。平和文化の促進，人間の尊厳擁護。子どもの権利擁護が近年のテーマです。司祭、修道者、一般信徒が参加しています。映画、放送、視聴覚、最近ではインターネットを活用した福音宣教に力を入れています。日本では､サンパウロ､女子パウロ会、カトリック中央協議会・広報のほか，ボランティアの信徒が積極的に活動しています。カトリック映画賞、インターネットセミナーのほか、これからはインターネット放送局（SNN）への取り組みなど、さらに活動の幅を広げていきたいと考えています。

賛助会員になってください！

私たち SIGNIS JAPAN の活動をサポートしてくれる賛助会員を募集しています。年会費は一口 3000 円。ご入会いただける方は、氏名、住所、連絡先を下記にお知らせください。年会費およびご寄付は、銀行口座または郵便振替口座にお振込をお願いいたします。

銀行振込　三菱東京 UFJ 銀行　六本木支店
普通　1679019
SIGNIS　JAPAN　代表　千葉茂樹
郵便振替　口座番号　00100-0-594547
口座名称　SIGNIS JAPAN
代表者　千葉茂樹

連絡先：〒 107-0052　東京都港区赤坂 8-12-42
女子パウロ会内　SIGNIS　JAPAN
info@signis-japan.org　http://signis-japan.org/